

(様式2)

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200158		
法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会		
事業所名	グループホーム千秋		
所在地	新潟県長岡市千秋2丁目221番地14		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n.kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成23年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者一人ひとりに合わせた個別のケアに取り組み、その人らしさを大切にされたケアの実践に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム千秋」は、地域密着型サービス事業所の複合施設「高齢者ケアセンター千秋」の1階にある。3階建ての建物で、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、小規模多機能型居宅介護が併設されている。信濃川沿岸の大規模商業地域の一角に位置し、周囲には公園や大型ショッピングモール、映画館、病院等が整備されている。

職員は、複合施設全体の理念にある、「一人ひとりを大切にすること」「地域と共に歩むこと」を念頭におきながらケアのあり方を考え、常に利用者の意見、要望に沿ったケアの実践に努めている。年1回は、利用者・家族を対象としたサービス満足度調査を行い、意見・要望を受け止めて運営やサービス向上に活かしている。

地域に対しては運営推進会議を通じて理念を理解してもらい、地域の催し物やお祭り、敬老会等にも積極的に参加するなど、地域の一員として暮らしていくことを意識した取り組みを行っている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内にセンター全体の運営理念を掲示し、皆に口頭で伝える事で、常に意識できるよう心がけている。	複合施設全体で地域密着型サービスの意義を十分に理解して理念を作り上げている。個人の生活を大切にすること、地域と共に歩むことが表現された理念を玄関に掲示し、日々のミーティングや職員会議で理念を意識した話し合いを行い、実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やイベントへの参加、買い物等、地域に積極的に出掛け、地元の人達との交流に努めている。	大きな商業地域に隣接しているため、イベントへの参加や買い物、映画鑑賞など気軽に地域へ出かけている。地域への働きかけを継続的に行い、町内の夏祭りや敬老会にも参加するなど積極的な交流に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加されている地域住民代表の方へ、グループホームでの活動やご利用者の状況を報告することで認知症の方の支援方法を伝えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見等を職員に伝え、ミーティング等で検討しサービス向上に活かすよう心がけている。また、センター全体の職員会議や運営会議においても検討を行うようになっている。	会議は2ヶ月に1回開催している。ホームの状況や今後の活動予定等の報告、外部評価の取り組みや満足度調査結果等の話し合いを行い、活発な意見交換がなされている。複合施設全体の職員会議や運営会議で検討した内容も報告している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当地区地域包括支援センター職員、市職員も運営推進会議に出席している。出席できない場合は、会議内容や議事録等も市に提出し、事業所の運営状況等伝えている。	運営推進会議の参加を含め、市の担当課、地域包括支援センターとは日常的なやりとりが行われており、運営推進会議の議事録等を配布して運営状況を伝えている。平成22年度は特に、市の認知症サポーター研修開催に参画し協働している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センター全体で研修を行い、知識と意識付けを行っている。また、必要と思われる場合には介護・看護・ケースワーカー多職種でカンファレンスを行い、他の方法を検討している。	身体拘束廃止についてマニュアルを整備するとともに、複合施設全体の研修会の中で知識と理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。必要時には身体拘束検討会議を開催して、多様な職種が集まって身体拘束のないケアについて検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	センター全体で研修を行い、意識付けを行っている。また、全体的な業務量や職員個々の心身の状況を把握するように努め、予防を図っている。	高齢者虐待については法令遵守を基本とし、不適切なケアについて学ぶ研修会も開催して職員の理解を深めている。また、管理者は、日々職員の心身状態の把握にも努め、業務量等も過度な負担にならないよう配慮している。	利用者に対する職員の言葉、コミュニケーションのとり方に、強い口調や態度が見受けられた。日頃の利用者への対応が適切であるかどうか職員全員で振り返るなど、さらなる意識付け、実践を期待したい。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護保険以外の社会資源活用の勉強会を行い、活用できるように取り組んでいる。また現在入居されているご利用者で必要と思われる方には、情報提供を行い、利用に繋げている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明についてはケースワーカー及び必要時には看護師も同席し、理解が得られるように説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動などから思いを推察するように努めている。また、ご家族からは面会時やカンファレンス時には積極的に意見を聞くように努めている。他、「満足度調査」や「ご意見箱」を設置することにより意見を求め、ミーティング・運営会議・職員会議において検討し改善に繋げている。	毎年12月に複合施設全体で、利用者家族に満足度調査を行っている。満足度調査の結果は掲示するとともに家族へ送付し、公表している。また、利用者からは、職員が直接要望や意見を聞き取るようにしている。把握した意見や要望は職員会議、運営会議、運営推進会議等で報告・検討して改善に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や職員会議を開催し意見を求めている。また施設長面接、職員アンケートの実施等も実施し、意見を反映させている。	全職員が参加する職員会議で職員の意見を聞いている。複合施設の各事業所の管理者等が参加する運営会議では、それぞれの事業所の課題や職員の意見等を持ち寄って検討し、運営に反映させている。その他にも、施設長との面談、職員アンケートの実施など意見・要望を表出できる機会を作っており、その結果は掲示して公表している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長との面接や職員へのアンケートの実施、メンタルヘルスなど各自が向上心を持って働けるよう環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	センター全体で研修委員会を立ち上げ、各種研修を計画し、全職員が研修を受けることが出来るようにしている。また、個々の能力向上や専門技術を習得できるように外部研修への参加も行っている。資格取得の勉強会等も実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長岡市の集団指導での意見交換会に参加し情報交換している。他のグループホームとの交流を通じ、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の入居時訪問面接や入居後においても、本人の思いや気持ちを聞く機会を持ち、寄り添い、思いを受け止めて安心できる関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前訪問面接において、家族の思いや気持ちを聞く機会を持ち、それに耳を傾け、必要であれば看護師からの説明も行い、関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞き、他職種で判定会議を開催し、そこで利用者の生活全体像から必要なサービスを見極め調整を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力に応じて家事行為を行っていたくなど、一方的に介助を受ける存在ではないようにしている。また、職員は昼夕食時可能な限り利用者と一緒に食事を摂り、共に暮らすという事を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは日頃から多くのコミュニケーションを取り、ご家族からの支援の方が状態安定に効果的に作用するものやご家族からの希望があれば支援の1人として協力を求め、共に本人を支えるように努めている。毎夕、ご家族の協力を得てドライブに出かけ、状態の安定に効果を得ている。また、精神的な安定のために日々の面会の協力をお願いしている。	職員は、日頃の家族との関わりの中で、本人の得意なことやサービス利用前の生活の様子などの情報を得よう努めている。本人から外出の希望があれば付添いを依頼したり、面会を働きかけるなど共に本人を支えていく関係づくりをしている。また、家族との懇談会も開催し、本人の暮らしぶりを見てもらうとともに、本人と家族と一緒に過ごす機会としている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者一人ひとりの生活習慣を尊重し、これまでと変わらず交流が保てるよう働きかけている。馴染みの知人や家族の面会も多く見られる。	利用者がこれまで築いてきた地域や人との関係が継続できるよう支援している。なじみの理美容院の利用や、家族や友人との手紙や電話のやり取りを支援したり、家族等に面会を働きかけるなどしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握するよう努めている。、皆で楽しく生活ができるよう、利用者同士が関わり合い、支えあえるよう職員が間に入り調整役となっている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、特に在宅復帰された方についてはセンター内の居宅介護支援事業所に繋ぎ、センター全体として継続して支援を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、ご利用者の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。家族からも情報を聞き、思いに添えるよう努めている。	職員は日頃から利用者に関わる中で、会話や表情、仕草などから思いや意向を把握するよう努めている。家族からも、面会やカンファレンス等の機会を利用し、できるだけ本人に関する情報を得て本人の思いをくみ取るよう努めている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前事前訪問の際に、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用状況等の情報に努めている。	入居の事前訪問の際に、これまでの生活歴や生活の様子、サービス利用状況等の情報収集をしている。利用者によっては利用前のサービス事業所からの情報を活用するなどしてこれまでの暮らしの把握に努めている。	事前訪問で把握した内容を基本台帳やアセスメント様式に記入しているが、生活環境、暮らし方などの記載が十分でないものも見受けられる。把握した情報や気づきは小さなものでも記録し、より一層のその人らしい暮らしの支援に活用していくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等、現状を総合的に把握するよう努めている。(個人ケース記録、1ヶ月シートの活用)		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話し合い、思いや意見を反映させるようにしている。また、他の職員の意見も聞き、現状に即した介護計画の作成を行っている。	半年に1回は利用者、家族等と介護計画について話し合う機会を持ち、思いや意見を反映させて介護計画を作成している。日々のミーティングで細かい内容まで話し合い、月1回の会議で評価し、より良いケアについて検討している。	日々の生活記録は細部まで記載されているが、どのように介護計画の実践に取り組んでいるかについて記録内容が十分ではない。目標に対するケアの実践状況を明確に記載し、モニタリングや見直しにより一層活用することを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践・結果、気づきを記録し、職員間で情報の共有を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の要望や、その時の状況に応じて、外出、受診介助など柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等において、また地域の行事に参加する事で地域資源を把握し、そしてご利用者一人ひとりが心身の力を発揮し、安全に暮らすことができるよう努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の健康状態や病気の状態、ご家族の希望等に応じてかかりつけ医の選定を支援し、定期又は随時受診が出来るように支援している。	利用者や家族の希望に応じたかかりつけ医への受診支援を行っている。原則として受診の付添いは家族に依頼しているが、その際は、ホームで作成した連絡用紙を渡し、本人の様子や病状を家族、主治医に的確に伝えている。必要時には主治医と直接連絡を取って情報交換している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特別養護老人ホームと併設しているため利用者の健康に対する看護師との報告・相談についてはスムーズに行われている。また、緊急時にも速やかに看護の協力が得られる体制になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については併設施設の生活相談員及び看護師と共に他職種でかわり支援している。また入院中期間中には定期的に病院との情報交換を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の施設の対応や考え方について説明を行っている。その際、必要に応じて看護師も同席し説明を行っている。今後も利用者の状況に変化が生じた場合やご家族からの相談がある場合には適宜ご家族が納得できるように説明を行っている予定。また、センター全体で看取りケア委員会を立ち上げ、看取りについての研修も行っている。	入居時に重度化した場合の指針の説明を行っている。本人・家族の希望に応じて柔軟な支援を行うことを説明し、本人の状態変化などの都度話し合いをして家族の不安を解消するように努め、家族、ホーム、かかりつけ医が方針を共有して支援している。また、複合施設全体で「看取りケア委員会」を設けて研修に取り組み、看取りケアの質の向上に努めている。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて、職員全体で訓練を行っている。(AED・吸引研修)	利用者の急変については、マニュアルを整備するとともに、年1回は消防署の指導による救急法の訓練を行っている。誤嚥や転倒など実際に起こりうる状況を想定した実践的な訓練となっている。また、併設事業所の看護師に常に相談できる体制がある。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを設置すると共に防災委員会を中心に避難訓練・防災演習を定期的に行い非常時に備えている。	災害時のマニュアルを整備し、複合施設全体で防災委員会を中心に避難訓練を行っている。月1回は防災に関する研修を行うとともに、年2回は隣接の障害者施設と合同で避難訓練を行っている。町内会長や老人会の参加も得ている。	グループホームを始め特別養護老人ホーム等5つの事業所から成る複合施設であり、連携体制が整っているが、ホームの職員自身もマニュアルや防災設備の操作手順、避難経路等をホームの職員自身も熟知しておくことが望まれる。また、地域との連携について、訓練への参加等を通じて、具体的に災害時に協力や応援が得られる体制を構築することを期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴の声掛けに、他の利用者に分らないように行う。衣類や排泄関係の持ち運びにバッグを用いるなど、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう対応を工夫している。	利用者の誇りやプライバシーを大切に、トイレへの誘導や入浴の声かけはさりげなく行っている。また、食事の手順への混乱や食べこぼし等に対しても利用者一人ひとりの状況に応じて細やかな配慮を行っている。記録等の個人情報、他者の目に触れるところで取り扱わないようにしている。	職員同士の会話の内容が聞こえたり、利用者に対する職員の対応に指示的な言葉が見受けられた。利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応について、今一度職員全体で振り返り、さらなる向上に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・食事等に関して、ご利用者の意思に合わせて声をかけ、意向が合わない場合には時間を置いて再びお声掛けするなど、自己決定できるよう配慮している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの気持ちを尊重して、職員が個々の食事や入浴等それぞれの意思を確認し、生活パターンを把握し、可能な限りご利用者の意向に合うように調整をおこなっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びを本人と一緒に進むよう心がけている。ご本人の希望、体調に合わせて、寝巻き・普段着の着替えを行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理時の音や匂いを感じていただいたり、ご利用者それぞれの力により、一緒に配膳したり、下膳したり茶碗拭きの片付けをしていたりしている。	利用者と職員とが力を合わせて準備や後片付けを行っており、職員は、本人が持っている力を発揮できるよう支援している。利用者一人ひとりの状態に応じて食事の形態や温度、時間等に配慮している。食事時はゆったりと楽しく食べてもらえるよう心掛けて、会話の提供や必要な介助をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの日々の食事や水分摂取状況をチェックシートにて把握し、必要に応じて栄養士や看護師と連携して栄養(好みのものや甘めのもの。栄養補助食品)や水分が確保されるように検討を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に一人ひとりの口腔状態や能力に応じ、入れ歯の方に関してはお預かりして洗浄したり、自立の方に関しては歯ブラシで磨いていただいで終了後に職員が確認を行っている。近隣の歯科に受診し口腔内の治療している方もいられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴え時のほか、一人ひとりのパターンや習慣に応じ誘導してトイレでの排泄に繋がるように心をかけている。オムツ内失禁を減らすように努めている。足元不安定になったご利用者のために、ポータブルトイレを設置したこともある。	利用者一人ひとりの排泄状況を記録し、排泄パターンや習慣を把握して、それに応じた支援を行っている。重度化が進み介護用品の使用も増えているが、できるだけトイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師、及び必要に応じ主治医と相談し、下剤等の内服を行っている。便秘傾向の方には水分を多く摂取していただいている。また、身体を動かす機会を設けて自然排便ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にご本人に入浴の是非を確認し、意向に合わない場合は、時間や曜日をずらして実施している。季節に応じて、入浴剤を使ったりゆずを使用したりし、入浴を楽しんでいただいている。(希望に応じ回数を増やしたりもしている)	原則的な時間帯があり、午前中と午後の時間帯に希望に合わせて入浴してもらっている。その日の体調をみながら、ゆっくりと入浴できるように支援している。複合施設の特設浴槽を利用し、重度化しても安心して入浴できる環境も整えられている。	季節を感じられる入浴剤を使用するなど入浴を楽しめるよう工夫しているが、回数や時間帯が決まっている。毎日入りたい人、夕方入りたい人など利用者一人ひとりの希望を引き出し、利用者の体調はもちろん、気分や要望に配慮しゆったりとした入浴時間が持てるようさらなる検討を期待したい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、ご本人のその日の体調に合わせて休息していただくよう心掛けている。また昼夜逆転気味の方には日中のアクティブ活動参加に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケース上の受診記録、または薬の説明書にて各薬の把握を行なっている。また看護師と連携し服薬の支援、症状の変化の確認を行なっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備・片付けや洗濯干し・たたみ、買い物等ご利用者の経験や知恵を活かした場面を作っている。他、外出や外食、地域行事の参加等、ご利用者と相談しながら行っている。アクティビティの参加を促し、日々の生活に張り合いをもっといただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>可能な限り一人ひとりの希望に応じて散歩や買い物に出かけられるように調整している。ご家族の協力により毎夕ご本人にドライブに出かけていただいたり、外泊の援助を行ったことがある。</p>	<p>利用者一人ひとりの希望に沿って買い物や散歩など外出の支援をしている。利用者の希望を把握して、スーパーマーケットや外食に出かけたり、近隣の図書館、映画館などの文化施設を利用するなど、利用者の生活範囲の拡大に取り組んでいる。</p>	<p>外出支援は行われているが、行事的な外出となっている傾向が見受けられる。職員側の動きに合わせる形になっていないか、外出が固定化していないかなどを振り返りながら、毎日の生活の中で、利用者の気持ちやその時々状況に応じて戸外に出かけられるよう、より積極的な取り組みを期待したい。</p>
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望や能力に応じ、現金を所持・管理されている方もいられる。お金がある安心感や満足感に繋がるよう支援している。センター内の自販機やパン販売の時など、ご自分で現金を支払っていただいている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族や友人から手紙が来たり、手紙を出したい方は事務より出すことができる。携帯電話を所持し家族とのつながりを大切にされている方もいられる。センター内に公衆電話も設置され、いつでも利用できるようになっている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共同スペースに畳部屋を作り、ゆっくり横になれたり、ソファーに座ってゆっくり過ごせる環境になっている。浴室は家庭的な作りにし、自宅で入浴しているような環境を整えている。生け花により季節にあった花を飾ることで季節感をだしている。</p>	<p>リビングは大きな窓からの採光が良く、明るく暖かな空間である。畳のスペースを設け、ソファも設置し、利用者が思い思いにゆったりと過ごせる居場所作りをしている。</p>	<p>リビングの時計やカレンダー、装飾品等が、利用者の目線では見えにくい状況にある。そこで生活する利用者の目線や状況に配慮したより一層の環境づくりに期待したい。</p>
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂の壁を隔てテーブルを分けて、独りになれたり、気のあった利用者で過ごせたりできるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方の思い出の写真や使い慣れた家具、布団等が持ち込まれ、またこれまでの習慣より畳部屋にするなど、ご利用者一人ひとり居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室には使い慣れた家具や調度品、家族の写真や目覚まし時計などの生活用品など馴染みの物品を持ち込んでもらい、本人が安心して過ごせる居室環境作りを支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットやテーブルの位置を配慮し、居室内を転倒することなく、自立して移動できるように努めている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない